

| 番号  | 感染症           | 出典   | 概要   |
|-----|---------------|--|--|
| 153 | BSE           | The Lancet<br>2005;365(9461):781-3   | BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。  |
| 154 | BSE           | 厚生労働省ホームページH17年<br>年5月6日   | BSEスクリーニング検査結果について。全牛検査開始以降にBSEと診断された牛は12頭。  |
| 155 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report 2005<br>;11(5)  | 2005年2月8日、FDAのTSE諮問委員会(TSEAC)の会議が開催された。諮問委員会はフランスにおいて1980年以降に輸血を受けた米国の献血者の据え置きをするようFDAに勧告することを決定し、他のヨーロッパ諸国には勧告を拡大すべきでないことを合意した。   |
| 156 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Clinical Microbiol<br>2005;43(3):1118-1126  | レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。   |
| 157 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of General Virology 2004;<br>85(Pt9):2727-33   | PrP <sup>arr</sup> をエンコードする対立遺伝子をホモ接合に持つ羊は、スクレイピー抵抗性であると考えられていたが、小脳、延髄間部、前頭皮質、脳幹にPrP <sup>sc</sup> 蓄積が確認された。   |
| 158 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Ministerio da saude<br>Direccao-Geral da Saude<br>Comunicado, lisboa (2005年6<br>月9日付)                                | 保健監督局に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病のはじめての可能性例が検査診断結果と共に報告された。この他には本疾患の症例はなく、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われるような症状の例もないとの通知書。   |
| 159 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Neurology 2005 ;64(5):905-7  | R208H変異がPrP <sup>sc</sup> の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。  |
| 160 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Proceedings of National<br>academy Science<br>2005;102(9):3501-6   | クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。  |
| 161 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Science 2005;307(18):<br>1107-10   | 慢性炎症状態がプリオンの自然及び医原性伝播に影響し拡大させる可能性を示唆した。  |
| 162 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Scienceexpress report<br>2005;307:1107-10  | 腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- $\alpha$ 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。  |
| 163 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Scrippharma;3000:6<br>2004年 10月29日   | クロイツフェルト・ヤコブ病に感染していることが後に判明した人物により献血された血液を用い製造された一部の血液由来医薬品(LFB製の凝固因子、アルブミン)を回収した。この人物は1993年から2003年の間に数回にわたり献血をしていた。   |
| 164 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 厚生労働省 緊急情報 健康局疾病対策課国内における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の発生について(2005.2.4)。変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に係る感染経路について(2005.3.7)         | 日本国内で初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)が確認された。症例は男性で平成13年に40歳代で発症し、平成16年死亡。平成元年頃、約1ヵ月間の渡英・仏歴あり。Prion蛋白遺伝子に変異がみられず、vCJDに特徴的な病理所見およびウエスタンブロットの所見からvCJDと診断(2005.2.4)。感染経路は、輸血歴等無く、渡航中のBSE牛の経口摂取の可能性が示唆される(2005.3.7) |
| 165 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 厚生労働省ホームページH17年<br>3月7日  | 平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。   |
| 166 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | AABB Weekly Report<br>2005;11(8):7-8   | モロッコで最初のvCJD報告について。この男性は定期的にヨーロッパを訪問していた。  |
| 167 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Assessing the Risk of vCJD<br>Trans- mission via Surgery:<br>an interim reviewEd.<br>Department of Health2005年<br>3月 | 専門家向けの手術器具の再使用を介した変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)感染リスクの分析のupdate。全体として、手術を介したvCJD感染リスクは重大であると考えられる。高水準の滅菌基準の実施が非常に重要であるが、現在の技術は限度があり感染患者に用いられた器具のvCJD感染のリスクは未だ有意であることなどについて記載されている。                             |

| 番号  | 感染症           | 出典  | 概要  |
|-----|---------------|---|---|
| 168 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | CDR WEEKLY;14(39)   | 供血後にvCJD発症した人由来の製剤の投与を受けた人の一部については血液等の提供をしないようにする等の勧告。  |
| 169 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Cell 2005;121(2):195-206  | 異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。  |
| 170 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Eurosurveillance;10(16)2005年4月21日   | オランダで初めてのvCJDの可能性のある症例が報告された。   |
| 171 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | FDA TSE advisory committee 告知、2005年2月8日   | 伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会は、血漿由来製品における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)病原物質への暴露の可能性に関するリスク評価、英国在住のドナーの血漿から1990年代に製造された治験用血液凝固因子第XI因子のvCJDリスク、および、フランスおよび他のヨーロッパ諸国における輸血歴のある血液および血漿ドナーの据え置きの可能性について検討する会合予定を発表(2005年2月8日開催予定) |
| 172 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3), 10 (2005)  | 英国の1990年代における感染に関連したvCJDによるさらなる死亡は比較的に少ない、英国におけるvCJDの発生は減少、リンパ網内系細胞組織の調査結果により、臨床データの予想よりも実質的に高いvCJD有病率が示された。  |
| 173 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | <a href="http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new7-1.htm">http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new7-1.htm</a>     | AABBドナー履歴専門調査会はFDAがまもなく血液および血液製剤のドナースクリーニングに用いるドナー履歴質問表および付随する資料の最終ガイダンスを発表する予定であると見込んでいる。  |
| 174 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | <a href="http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L21710368.htm">http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L21710368.htm</a> | 2005年4月21日オランダで初の「狂牛病」ヒト患者が報告されたが、オランダ産牛肉を摂食することは安全であると発表された。   |
| 175 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | <a href="http://www.tga.gov.au/docs/html/tsepolicy.htm">http://www.tga.gov.au/docs/html/tsepolicy.htm</a>                   | 医薬品および医療用具を介した伝染性海綿状脳症(TSE)リスク低減へのTGAの取り組み(新製品の申請には動物およびヒト由来製品においてはBSEの発生していない国の原料を使用すること、これが不可能な場合には材料のTSEの安全性の評価を行うことなど)、医療用製品におけるTSEリスク低減の要件の追補。   |
| 176 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | International Journal of Epidemiology 2005;34:46-52   | フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。       |
| 177 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日   | アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。  |
| 178 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | J of Genetal Virology 2005;86:1571-9  | TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。   |
| 179 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | KATHIMERINI.オンライン版 English Version 2005年1月19日   | 2004年前半に、ギリシャ国内のヤギ12頭が、脳変性疾患であるスクレーピーに罹患したと確認された。この他8頭がキプロスで、26頭がフランスで確認された。これは2005年1月18日に公開されたEU統計により判明した。   |
| 180 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Medical News Today 2005年2月9日  | Pall社は新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。今春ヨーロッパで市販される予定のLeukotrap Affinity Prion Reduction Filter(白血球吸着親和性プリオン除去フィルター)は、最も汎用される輸血用成分である赤血球から感染性異常プリオンを除去する。  |
| 181 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Neurol Sci 2004;25:122-9  | 新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)とウシ海綿状脳症(BSE)との関連性に関する総説。vCJDの伝播経路として一般的に捉えられているBSE感染ウシの中枢神経系組織が混入した組織の経口摂取についてさらなる研究の必要性を提示している。  |

| 番号  | 感染症           | 出典                             | 概要   |
|-----|---------------|--------------------------------|--|
| 182 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | NOIDS Weekly Report 2005年4月22日 | 2000年8月から2004年8月31日までのCJD手術インシデント報告数は183件で、47%が散発的なCJD初発症例、28%が変異型CJD初発症例、19%がその他の型のCJDとCJDのリスクにある症例で、報告の7%はCJDが疑われたが最終的には初発症例の診断からは除外された。   |
| 183 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | PNAS,102(9),3501/2005          | CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質(rPrPsc)もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質(sPrPsc)も両方の異常プリオン蛋白質(PrPsc)を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD(sCJD)患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質(PrPc)を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかになった。 |
| 184 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Pro Med 2005/1/11              | 狂牛病のヒト感染型(vCJD)に罹患した男性が、合法的に実験的医学治療を受けることが認められた。治験薬のポリ硫酸ペントサンの使用許可を裁判所に申請。治療法がない患者とはみなされなくなった。   |
| 185 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed、2005年2月7日               | 英国で将来変異型ヤコブ病による多数の死亡患者が発生する可能性は低いと発表された。異常プリオンは感染動物の脳と神経系にのみ障害を起こすと考えられてきたが、病因となるタンパクがマウスを用いた実験に基づいて、他の臓器にも分布しうることが発表された。血液製剤・輸血による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病暴露の危険性が、FDAの伝染性海綿状脳症諮問委員会の主要な議題であった。感染の危険性を減じる新技術を期待する同委員会の提案に、Pall社がその新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。              |
| 186 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed、2005年4月22日              | 最近vCJDが診断された患者は、オランダにおいて初めて確認された症例である。政府関係者は他のヨーロッパ当局に対し、患者は献血もしくは組織提供を行っておらず輸血または組織の移植も受けていないこと、この症例が他者に感染を起こす、もしくは他者から感染したとは考えられないと述べた。患者がさらに疾患を伝播した可能性があるか決定するため調査中。  |
| 187 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed、2005年4月4日               | United Press International (UPI)社は、1971年に死亡したフランス人女性の脳が変異型クロイツフェルト・ヤコブ病に合致した病理所見を示しており、脳標本を再検査しているとの情報を入手。もしこの発見が確定されれば、従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。  |
| 188 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed、2005年5月5日               | オランダで「狂牛病」のヒト変異型であるvCJDと最近診断された26才女性が5月3日に死亡し、この神経疾患によるオランダ初の犠牲者になったとこの女性が入院していた病院当局が公表。フランスで新たに2名のvCJD患者が発見され、同国における患者総数は11名になったと保健当局が述べた。この患者らに献血歴は無し。   |
| 189 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed、2005年6月11日              | ポルトガルのDGS(Portuguese Main Directorate of Medical Services)は、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる青年男性患者1名の存在を発表した。ポルトガルは初のvCJD疑い患者を発表し、フランスは13例名の患者を確認した。  |
| 190 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed、2005年6月6日               | ヨークシャー州のvCJD患者集団発生での4名中の一人であった18歳の少年が1997年3月にvCJDで死亡した。この少年は登録された献血ドナーである事実が隠されていて、供血を受けた7人が追跡された。   |
| 191 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed、2005年7月                 | ポルトガル保健監督局総長は最近、検査室診断結果(扁桃生検)で判明したポルトガルにおける最初のvCJD可能性患者を報告した。12才男子であり、専門家による医学的治療を受けている。イギリスへの渡航歴は無い。  |
| 192 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | ProMed.2004年12月6日              | 輸血用血液の安全性確保に関して懸念が高まっているが、英国国立血液サービス(English National Blood Service)の国立輸血微生物学研究所によれば、vCJDの病因である感染性の異常プリオンが、輸血によって伝播される可能性を示唆する証拠が増えている。London大学の研究チームによる、ヒトプリオン蛋白発現トランスジェニックマウスへの異常プリオン感染実験の結果、すべてのヒトがBSEの異常プリオンに感受性があると判明。  |

| 番号  | 感染症           | 出典  | 概要  |
|-----|---------------|---|---|
| 193 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | The Lancet 2005 ;365(9461):781-3  | BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。   |
| 194 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Transfusion 2005;45(4):504-13   | 非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。   |
| 195 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | Transmissible Spongiform Encephalopathies Advisory Committee 16th Meeting Oct 14.2004 | FDAと伝染性海綿状脳症諮問委員会(TESEAC)との会合内容の要約。これまでの勧告の経緯と現行のFDAが定めるvCJD伝播リスク軽減措置の追加または改定措置の必要性に関する問い合わせ内容。   |
| 196 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | カナダ公衆健康局2005年1月11日  | 2005年1月11日、カナダ食品検査局(CFIA)はカナダのウシにおける3症例目の牛海綿状脳症(BSE)を確定した。vCJDのQ&Aも記載。  |
| 197 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 英国保健省Publications and statistics,2005/0231、2005年7月1日                                  | クロイツフェルト・ヤコブ病月間統計(2005年7月1日現在):2005年7月1日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-24(散发例19, 医原性1, 家族性1, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1, vCJD2)  |
| 198 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | 共同通信 2005年5月30日   | 献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980~96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。   |
| 199 | クロイツフェルト・ヤコブ病 | HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/11)68(2005)   | 2005年3月4日までの英国におけるクロイツフェルト・ヤコブ病確定およびその疑い症例の調査データ。2005年になってから2005年3月4日まで18例について調査し、死亡例-散发例:5例, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome):1例, vCJD確定例:1例, 生存のvCJD可能性例-5例。vCJD確定例死亡総数(1995年~2005年3月4日)-149例 |
| 200 | コロナウイルス感染     | Vox Sanguinis 2004;87:302-3   | 重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体SARSコロナウイルスの熱不活化に関する研究報告。原料血漿中に存在するSARSコロナウイルスによる感染リスクは、60℃10分間の熱処理工程により極めて低くすることが可能であることを示唆している。   |
| 201 | コロナウイルス感染     | European Respiratory Journal 2005;25(1):12-14   | SARS-CoVのRT-PCRの陽性反応がウイルス学的にSARSと確定された45名の患者について  |
| 202 | コロナウイルス感染     | J of Infectious Diseases 2005; 191(4):492-8   | NewHavenコロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが遺伝子配列分析によってオランダで最近報告された新規HCoVと密接に関連していることが明らかになった。  |
| 203 | コロナウイルス感染     | J of Infectious Diseases 2005;191(4):499-502  | New Haven コロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが典型的な川崎病の6ヶ月令の小児の呼吸器分泌液に存在していた。  |
| 204 | サルパルボウイルス     | J of Infectious Diseases 2004;190(11)1900-7   | サルのパルボウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。  |
| 205 | サルモネラ症        | ProMED情報(詳細) 2005.5.17  | 2004年ミネソタ州保健局公衆衛生研究所は、ミネソタ州のペット卸売り業者が保有する病気のハムスターからサルモネラ(Salmonella enterica 血清型 Typhimurium)が分離されたことを米国厚生省疾病管理・予防センター(CDC)に報告した。   |
| 206 | サルモネラ症        | 感染症学雑誌 2004;78(11):989-90   | 日本においても多剤耐性Salmonella Newportが存在していることが確認された。   |
| 207 | デング熱          | CDC/MMWR54(22); 556-558 Jun. 10, 2005   | 77例の急性デング感染症と検査確定されたうち8例が1次感染、12例が2次感染と診断された。   |
| 208 | デング熱          | Nephrol Dial Transplantation (2005)20:447-8   | デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。  |

| 番号  | 感染症          | 出典   | 概要  |
|-----|--------------|--|---|
| 209 | デング熱         | ProMED 20050210-0020<br>Feb. 8, 2005                                 | マレーシア当局は、クアラルンプールの2005年1月最終週のデング熱患者数が336名に増加と報告。一方シンガポール当局は、2004年全体でデング患者9459名を記録した。                                |
| 210 | デング熱         | ProMED: 20050516-0070<br>2005/5/12                                   | 2005年これまでに12名が死亡しており、昨年の死亡総数の約2倍にあると保健当局が2005年5月12日公表した。  |
| 211 | デング熱         | ProMED: 20050520-0070<br>2005/5/18                                   | North Cotabato州でデング熱患者の急増が見られた。   |
| 212 | デング熱         | ProMED: 20050530-0010<br>2005/5/21                                   | タイにおける死亡患者総数は16名に増加した。またプーケット島において、2004年以降デング熱患者が2倍に増加したことが判明した。  |
| 213 | デング熱         | ProMED: 20050613-0010<br>Jun. 6, 2005                                | フィリピン保健省は、2005年のデング熱の患者数は3倍に増加したと報告した。ベトナムの地方保健当局は、死亡患者3名を含む6,700名のデング熱患者を報告している。                                   |
| 214 | デング熱         | ProMED: 20050617-0050<br>Jun. 15, 2005                               | コスタリカで、デング熱患者が急増している、とコスタリカの保健当局が警告した。今年の初めから4400名以上の患者が報告され、2004年の51%増である。   |
| 215 | デング熱         | ProMED: 20050624-0030<br>Jun. 22, 2005                               | エルサルバドルでは、デング熱患者数は1278名に増加した。イエメンShabwa地域では、デング熱患者数が増加している。   |
| 216 | デング熱         | ProMed20041102-<br>0010(China Economic<br>Information Service)       | 中国東部の省で発生しデング熱流行は制圧された。   |
| 217 | デング熱         | ProMed20041119-0050(新華<br>通信)  | 今月(2004年11月)51歳女性がデング熱に罹患したことが発見され、今年(2004年)マカオにおける2例目のデング熱患者となった。  |
| 218 | デング熱         | ProMED20050106-0030 Jan.<br>12, 2005                                 | 2004年の最初の9カ月間で、8237名がデング熱に、360名がデング出血熱に罹患した。  |
| 219 | デング熱         | ProMED20050118-0030 Jan.<br>14, 2005                                 | 同国保健相は、2004年12月には、デング熱患者週平均数が450名から約1000名へと倍増したと発表した。   |
| 220 | デング熱         | ProMed20050424-0010(香港<br>News4月21日)                                 | 香港保健保護局は31才男性のデング熱輸入患者を確定し、今年の患者総数は5名となり、全例が輸入患者である。  |
| 221 | トキソプラズマ      | Veterinary Parasitology<br>2004;123:265-70                           | 1992-2003年の間にスペインの5つの地域から集めた野性ウサギの血清を調べた報告。野兎のT gondiiの感染保有率に影響する要因として地域性がある。                                       |
| 222 | 鳥インフルエンザウイルス | Emerging Infectious<br>Diseases 2004;10(12):<br>2156-60              | 米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。   |
| 223 | 鳥インフルエンザウイルス | Emerging Infectious<br>Diseases 2004;10(12):2196-9                   | ヒトへのH7N3型トリインフルエンザ感染として初の事例。  |
| 224 | 鳥インフルエンザウイルス | OIE 2005年5月27日号Vol.18<br>No.21                                       | インドネシアBanten州の2つの村で、ブタにおける高病原性鳥インフルエンザウイルスタイプH5N1感染のアウトブレイクが報告された。  |
| 225 | 鳥インフルエンザウイルス | Proceedings of National<br>Academy of Science<br>2004;101(5):1356-61 | 高病原性鳥インフルエンザA(H7N7)型ウイルスがヒト-ヒト感染した可能性を示唆する事例  |
| 226 | 鳥インフルエンザウイルス | Public Health Agency of<br>Canada released 2005年1月<br>14日            | ベトナムにおけるトリインフルエンザ(H5N1)のアジア各国でのアウトブレイク発生に対する嚴重な注意喚起。  |
| 227 | 鳥インフルエンザウイルス | RIVM rapport 630940003.<br>Bilthoven: RIVM                           | 2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。 |
| 228 | 鳥インフルエンザウイルス | The New England Journal of<br>Medicine 2005;352(4):333-<br>40        | 鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強く示唆された事例。  |

| 番号  | 感染症          | 出典   | 概要  |
|-----|--------------|--|---|
| 229 | 鳥インフルエンザウイルス | The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91 | H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。   |
| 230 | 鳥インフルエンザウイルス | The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91 | 呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。   |
| 231 | 鳥インフルエンザウイルス | Virus Research 2004;103(1-2):67-73                     | ヒトのインフルエンザの宿主として、アメリカにおけるブタの重要性について。  |
| 232 | 鳥インフルエンザウイルス | WHO/CSR<br>2004年9月28日                                  | ヒトからヒトへのトリインフルエンザ(H5N1)感染の可能性について。  |
| 233 | 鳥インフルエンザウイルス | WHO/CSR<br>2005年2月2日                                   | カンボジアではじめての鳥インフルエンザA/H5の感染例。  |
| 234 | 鳥インフルエンザウイルス | WHO/CSR<br>2005年5月                                     | 2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザA(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。  |
| 235 | 鳥インフルエンザウイルス | WHO/CSR, Influenza<br>2004年8月20日                       | 中国の複数の地域の農場においてブタが、高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1株に感染していることが示された。   |
| 236 | 鳥インフルエンザウイルス | WHO/CSR, Influenza<br>2005年12月30日                      | 高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。  |
| 237 | 鳥インフルエンザウイルス | 共同通信<br>2005年6月26日                                     | 日本で初めて鶏への高病原性トリインフルエンザH5N2型感染が確認された。  |
| 238 | 鳥インフルエンザウイルス | 食品衛生研究2004;54(7):21-4                                  | 鶏卵(卵黄)中の鳥インフルエンザウイルスの熱抵抗性に関する基礎研究   |
| 239 | 鳥インフルエンザウイルス | ProMED情報(詳細)<br>2005.5.23                              | 2005年4月末近くにカリマンタン島East Kalimantan州Samarinda地域Sidomulyaにおいて最近30羽のニワトリが死亡しているのが発見された。Java島東部の大学研究者がSurabayaのブタ1頭の咽頭拭い液と血液検体からRT-PCR法でH5N1型ウイルスを検出した。不活化された単離RNAは遺伝子配列が解析され、その結果このウイルスは高病原性を有し、家禽から分離された鳥インフルエンザウイルスと相同であった。 |
| 240 | 鳥インフルエンザウイルス | ProMED情報(詳細)<br>2005.5.23                              | インドネシアの研究者らがジャワ島のブタからトリインフルエンザ株を発見し、このウイルスがより容易にヒトに感染伝播する可能性の懸念が高まったと政府と科学者らが2005年5月14日述べた。検査したブタ20頭中10頭からH5N1型が発見された。これらのブタは2004年鳥インフルエンザ流行の発生したJava島の養鶏場から100ヤードの距離で飼育されていたが、なんら臨床症状を発症していなかった。                         |
| 241 | 鳥インフルエンザウイルス | ProMED情報(詳細)<br>2005.6.6                               | Banten州Tangerangにおいて調査3件が実施され、合計187検体が採取された。第1回目の調査が2005年2月23日にLegokのBabat村で実施され、鼻腔拭い液10件中5件が鳥インフルエンザ陽性、血清型はH5N1と同定された。第2回目の調査は2005年4月14日にPanonganのRancaiyuh村で実施され、5ヵ月齢以上のブタ31頭から採取された鼻腔拭い液10件中6件がH5N1型鳥インフルエンザ陽性であった。    |
| 242 | トリパノソーマ症     | IASR 2005;26(5):124-5                                  | 2004年以降インドでヒトのトリパノソーマ症が発見された。   |
| 243 | トリパノソーマ症     | ProMed2050402-0020(O<br>Folha online)                  | ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生した。  |
| 244 | トリパノソーマ症     | The Weekly Epidemiological<br>Record 2005;80(7):61-4   | インドにおける新型のヒトでのトリパノソーマ症の報告   |
| 245 | トリロタウイルス     | 第52回日本ウイルス学会学術<br>集会<br>(2004/11/21-23)                | トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。   |
| 246 | ニパウイルス       | Emerging Infectious<br>Diseases 2004;10(12):2082-7     | バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)   |

| 番号  | 感染症     | 出典  | 概要   |
|-----|---------|---|--|
| 247 | ニパウイルス  | Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2228-30  | 1998年のマレーシアで集団発生したブタからこれまで報告されていなかった株を含むニパウイルスが分離され分子解析された。  |
| 248 | ニパウイルス  | Health and Science Bulletin,2(2),2004   | 2004年2月19日～4月16日にバングラデシュFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。 |
| 249 | ニパウイルス  | ProMed20041123-0030(The Independent Bangladesh)<br><br>Indendependent,Bangladesh、11月21日 | ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。   |
| 250 | ニパウイルス  | ProMed20050130-0010(New Straits Times 1月29日)  | Malacca州の農場で発生した120頭以上のブタ大量死原因はニパウイルスや豚コレラではなかった。  |
| 251 | ニパウイルス  | The Independent 21 Nov 2004   | ニパウイルスがヒトからヒトへ伝播されるという見方を裏付ける症例。   |
| 252 | バルボウイルス | Transfusion 2005;45(6):1011-19  | 血液製剤によるヒトバルボウイルスB19の潜在的感染に対し製造業者はハイタイターのミニプールの核酸及び免疫学的スクリーニングを導入している。今回の報告段階で導入していれば感染が引き起こされなかった可能性がある。   |
| 253 | ハンタウイルス | CDC<br>2004年9月14日   | 保有宿主(シカネズミなど)、伝播方法(米国においてHPSは飛沫感染、ヒトからヒトへは伝播しない)およびハンタウイルス性肺症候群に関するQ&A   |
| 254 | ハンタウイルス | Microbiology and Immunology 2004;48(11):843   | 2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。   |
| 255 | ブドウ球菌感染 | CDC/MMWR 2005;54(07):168-70   | 血小板輸血による致死性敗血症を起こした事例。パルスフィールドゲル電気泳動法では区別がつかなかった。  |
| 256 | ブルセラ症   | ProMed20041225-0010(厚生労働省検疫所 海外感染症情報2004年12月25日掲)                                       | 2004年10月下旬に中国保健保護局ではブルセラ症患者を検査により確定していた。   |
| 257 | ブルセラ症   | Veterinary Microbiology 2004;103:47-53  | ナイジェリアの家畜におけるブルセラ感染の予備的観察の提示。  |
| 258 | ペスト     | ProMed20041102-0020(厚生労働省検疫所感染症情報 2004年11月2日)   | 死亡患者を出した青海省でのペスト流行は制圧された。農村部の住民8名が死亡した中国西北部でのペスト流行は、制圧されたと報告されている。患者の大部分が、野生のマーモットを殺傷したり、食べてペストに罹患した農夫や牧夫であった。   |
| 259 | マールブルグ病 | CDC<br>2005年4月20日   | CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。  |
| 260 | マールブルグ病 | CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2  | 2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。  |
| 261 | マールブルグ病 | WHO/CSR<br>2005年4月21日   | 2005年4月19日現在、アンゴラ保健省はマールブルグ出血熱症例266例を報告。うち239例は死亡。   |
| 262 | マラリア    | ABC newsletter 2004年12月3日   | 米国疾病管理予防センターは、ドミニカ共和国のアルタグラシア州およびデュアルテ州を訪れた旅行者2名のマラリア感染報告を受け、旅行者に対する予防措置の勧告内容を拡大する。  |
| 263 | マラリア    | CDC<br>2005年1月12日   | 国疾病対策予防センター(CDC)は、2004年12月26日に発生した大地震および津波の被災地域に居住する米国人に現在の健康上、安全上のリスクに関する情報を通知し、これらのリスクを最小限とするために講じる措置についてのガイダンスを提供する。  |
| 264 | マラリア    | CDC/MMWR54(15); 383-384Apr. 22, 2005  | グアテマラ共和国から米国に移住した母親から生まれた生後7週間の新生児(男)における先天性マラリアの症例報告。   |

| 番号  | 感染症           | 出典   | 概要   |
|-----|---------------|--|--|
| 265 | マラリア          | CDC/MMWR54(SS02); 25-39 Jun. 3, 2005   | 米国で感染したマラリア症例10例のうち1例が輸血関連と考えられる。  |
| 266 | マラリア          | ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)   | パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。  |
| 267 | マラリア          | Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1  | 現在のドナー選択がドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染  |
| 268 | レトロウイルス       | Blood Products Advisory Committee 2004年10月21-22日                               | サル泡沫状ウイルス(SFV)および非ヒト霊長類の保有するウイルスがヒトに伝播するリスクについて、FDAから血液製剤諮問委員会(BPAC)への問い合わせ内容。   |
| 269 | レプトスピラ症       | ProMed20040929-0080(News-Medical.net)  | 2004年8月、香港で新たに2名のレプトスピラ症患者確認。  |
| 270 | 寄生虫感染         | Acta Tropica ( ACTA TROP. ) (Netherlands) 2004;92(3):231-6                     | メキシコで初めて、牛由来のエキノコックス症に感染した患者が報告された。  |
| 271 | 狂犬病           | 1.ProMed20041026-0040(Regnum allnews)  | ロシアで狂犬病が野生動物間で感染拡大し、感染した子犬から受傷した子ウシが発病した。  |
| 272 | 狂犬病           | AABB WeeklyReportVol. 11, No. 10 Mar. 25, 2005                                 | 患者が臓器を移植されたレシピエント3名は狂犬病に関連した症状を診断され死亡し、肺を移植されたレシピエント1名も手術中に死亡した。   |
| 273 | 狂犬病           | CDR WEEKLYVol. 15, No. 9Mar. 3, 2005   | ドイツの臓器移植財団は、2004年12月下旬に死亡したドナーから臓器を移植された患者6例中3例が狂犬病の可能性例であることを公表した。  |
| 274 | 狂犬病           | ProMed20050311-0724(sourcc correio Braziliense 9 Mar 2005)                     | 2005年1月～2月の期間にブラジルのブラジリア連邦のFederal区域において7頭のウマおよびウシで狂犬病が診断された。この数字は2004年における狂犬病事例総数の半分に達する。   |
| 275 | 結核            | ProMed20050208-0070(ネブラスカ州農業局)   | 最近ネブラスカ州で発見された牛結核(TB)症例(屠殺時陽性確認)の調査に積極的な取り組み。  |
| 276 | 原虫、肺炎、レプトスピラ症 | Veterinary Record ( VET. REC. ) (United Kingdom) 28 AUG 2004, 155/9(255-258)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コクシジウム症の大きな増加が確認された</li> <li>・子牛に肺炎(細菌性、RSウイルス及びパラインフルエンザ3型)の発症の増加が確認された</li> <li>・幼牛にLeptospira Hardjoの発症の増加が確認された</li> </ul> |
| 277 | 原虫感染、サルモネラ    | Veterinary Record ( VET. REC. ) (United Kingdom) 02 OCT 2004, 155/14 (409-412) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・8月にNeospora caninumの深刻な流行の発生が報告された</li> <li>・サルモネラ症例の急増が報告された</li> </ul>   |
| 278 | 口蹄疫           | ProMed20041203-0010(Xinhua12月1日)   | ウガンダでウシ2000頭以上が口蹄疫で死亡したという報告   |
| 279 | 口蹄疫           | 1.ProMed20050123-0080(PNA)<br>2.YahooNews Aus&NZ Jan20 2005                    | 9年ぶりにフィリピンでブタにおける口蹄疫が根絶された。  |
| 280 | 口蹄疫           | 1.ProMed20050208-0120(Pakistan Link)<br>2.Pakistan Link, 7 Feb 2005            | Lakki地域で口蹄疫によりウシ数百頭が死亡したという報告。   |
| 281 | 細菌感染          | AABB Weekly Report 2004; 10(32)  | 86才女性が、稀な種類の細菌が含まれた赤血球の輸血を受けた後に死亡した。   |
| 282 | 細菌感染          | Infectious Diseases Weekly Report Japan2005年第8週                                | 44頭のカキウザルが輸入され、うち4頭から細菌性赤痢菌が検出された。   |
| 283 | 心筋炎           | Epidemiological Record 2005;80(12):101-12                                      | スリランカで原因不明の心筋症発生について。  |



| 番号  | 感染症     | 出典   | 概要   |
|-----|---------|--|--|
| 284 | 人畜共通感染症 | CDC/MMWR 2005;53(51&52)1198-1202   | 2003年、米国において鼠咬熱による2例の死亡例が発生した。1例は52歳女性のペットショップ店員で、救急外来受診の4日前に店のラットに人差し指を咬まれ、ICU入院から12時間後に死亡した。2例目は、9匹のラットを飼っている19歳女性で、ラットに咬まれたかどうかは不明であるが、病院に搬送されたときにすでに死亡していた |
| 285 | 人畜共通感染症 | QJ Med 2005;98:255-74  | ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について。   |
| 286 | 人畜共通感染症 | Veterinary Microbiology 2004;104:113-7   | ブタTTVはブタの臓器や細胞の異種移植によりヒトへ感染する。ブタTTVはブタでは非病原性であるが、免疫抑制異種移植レシピアントで病原性になる可能性がある。したがって異種移植のブタドナーをスクリーニングすることが重要である。  |
| 287 | 髄膜炎感染   | CDC/MMWR 2005;54(21):537-9   | 臓器移植によるリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染に関する事例。   |
| 288 | 髄膜炎感染   | CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2   | 米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染により臓器移植患者3名が死亡。ドナーはツペットのハムスターから感染した可能性がある。  |
| 289 | 髄膜炎感染   | Infectious Diseases Weekly Report Japan2004年第46週   | 細菌性髄膜炎の報告数が過去最高に達したとの報告。   |
| 290 | 髄膜炎感染   | ProMed20050202-0010(厚生労働省検疫所海外感染症情報2005年2月2日)  | 中国安徽省当局副責任者は2005年1月29日に、髄膜炎菌性髄膜炎の深刻な流行が省内の少なくとも5郡/市で発生していると発表した。この感染症は、省内の別の地区にも拡大しているようである。   |
| 291 | 髄膜炎感染   | ProMed20050525-0020(Associated Press)  | 米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染により臓器移植患者3名が死亡。ドナーはツペットのハムスターから感染した可能性がある。  |
| 292 | 髄膜炎感染   | WHO /CSR 2005年1月11日  | フィリピン保健省が、髄膜炎菌様疾患による患者33名の内、19名が死亡した(致死率58%)   |
| 293 | 大腸菌性胃腸炎 | J of Food Protection 2004;67(10):2274-6  | ブタが病原性大腸菌O157:H7の潜在的な保有者とされた調査結果。  |
| 294 | 大腸菌性胃腸炎 | 日本小児学会雑誌2005;109(1):54-7   | VT2産性の腸管出血性大腸菌O177:HNMIによる溶血性尿毒症症候群(HUS)の1例  |
| 295 | 炭疽      | 1.ProMed20041105-0060(OIE)<br>2.OIE Disease Information 5Nov2004Vol17                              | フィンランドで発生したウシの炭疽の報告である。  |
| 296 | 炭疽      | 1.ProMed20041113-0080(国際SOS公衆衛生部)  | インドネシアで炭疽に感染したウシの肉を摂取し、ヒトに感染したという報告である   |
| 297 | 炭疽      | 1.ProMed20050112-0080(Russian news agency)<br>2.ProMed20050205-0050(Radio Kurs 2月4日)               | ロシアKursk地区でのウシ炭疽症例の報告  |
| 298 | 炭疽      | 1.ProMed20050116-0080(OIE)<br>2.OIE,DiseaseInformation2005;18(2)                                   | ペルーでウシの炭疽が発生し11頭が死亡したという報告。  |
| 299 | 炭疽      | 1.ProMed20050120-0100(The Herald/All Africa Global Media1月13日)<br>2.ProMd20050127-0100(All Africa) | Mosvingo地域で炭疽患者70名以上が発生し死亡例もでている。炭疽に感染したウシからの食肉の疑いが出ている。   |
| 300 | 炭疽      | 1.ProMed20050120-0120(南アフリカ国立感染症研究所)<br>2.IOL/SAPA<br>http://www.iol.co.za                         | 南アフリカで死亡したウシの肉を食べてヒトに炭疽が感染したとの報告。  |
| 301 | 炭疽      | Canadian veterinary journal 2004;45(6):516-7   | 2004年1月中旬に牛の突然死が170頭に発生した。その後も突然死が続いた。開業医と州及び国の研究機関で連携し、調査した結果、炭疽菌によるものであることが判明した。   |

| 番号  | 感染症   | 出典  | 概要  |
|-----|-------|---|---|
| 302 | 炭疽    | ProMed20041105-0060(OIE)  | フィンランドでの炭疽。動物の異常の初検知日:2004年10月5日。事例発生地:フィンランド南部。流行中の動物個体数:ウシ39頭。症例数/死亡症例数:2頭。感染源:汚染された飼料。感染対策:隔離および国内での移動管理。    |
| 303 | 炭疽    | ProMed20050120-0110、<br>20050127-0100(The<br>Herald/All Africa) | ジンバブエで炭疽流行により130名が報告され、3名死亡。ウシ、ヤギ80頭以上が死亡。  |
| 304 | 炭疽    | ProMed20050120-0120(ILO)  | 南アフリカでウシからの感染が疑われる皮膚炭疽患者3名が発生   |
| 305 | 炭疽    | ProMed20050519-0040(アフリ<br>カ全土動物資源局)                            | ギニアで炭疽感染による入院患者13名、死亡4名を含む80名のヒト感染及びウシ126頭の死亡が確認された。  |
| 306 | 炭疽    | ProMed20050614-<br>0020(Newindpress)                            | インドで約15名が炭疽に感染した。3名が死亡。   |
| 307 | 炭疽    | ProMed20050615-0050(All<br>Africa)                              | ジンバブエでウシから感染が疑われる炭疽流行が再発生した。5名のヒト患者、1名死亡。   |
| 308 | 伝染性紅斑 | British Journal of<br>Haematology 2004;128: 401-<br>4           | 静注用免疫グロブリン製剤の製造工程におけるヒトパルボウイルスB19の液状加熱処理による不活化に関する実験。同ウイルスはこの加熱処理により迅速に不活化されることが示された。                           |
| 309 | 伝染性紅斑 | Electrophoresis 2005;26:28-<br>34.                              | 血漿分画製剤の製造工程に応用し得る新規のウイルス除去技術の紹介。イヌパルボウイルス(CVP)を用いた実験においてウイルス力価が10000分の1に減少し、かつ分離後の血漿蛋白の純度および機能、収率は低下しないことが示された。 |
| 310 | 野兔病   | CDC/MMWR<br>2005;54(07):170-3                                   | 2001-2004年の間にワイオミング州でヒトでの野兔病感染症例報告が増加した。  |